

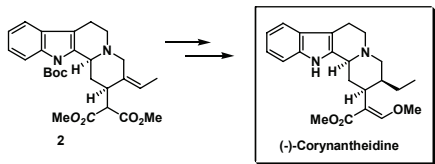
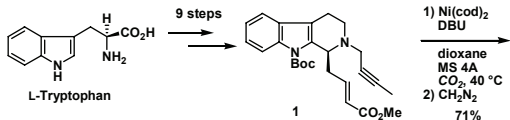
# 29N-pm03

0価ニッケル錯体を用いたエニンへの二酸化炭素固定化反応の開発研究 -生物活性化合物(-)-Corynantheidineの合成研究-

○水野 貴志<sup>1</sup>, 瀧本 真徳<sup>3</sup>, 森 美和子<sup>2</sup>, 佐藤 美洋<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>北大院薬, <sup>2</sup>北医療大薬, <sup>3</sup>理研)

[目的] 我々はこれまで0価Ni錯体を利用したエニンへのCO<sub>2</sub>固定化反応の開発を行ってきた<sup>1)</sup>。さらに最近、本法を用いたヘテロ環化合物及び二環式化合物合成が収率良く進行することを報告している<sup>2)</sup>。今回、本反応を鍵工程に用いた植物由来インドールアルカロイド(-)-Corynantheidineの合成を目指し、検討を行なった。

[方法・結果] L-Tryptophan から9工程を経て得られるエニン1をNi(cod)<sub>2</sub>及び



DBU存在下、CO<sub>2</sub>と反応させたところ、

(-)-Corynantheidineの基本骨格を有するカルボキシル化体2が71%の収率で得られることが分かった。現在、カルボキシル化体2から(-)-Corynantheidineへの変換を検討中である。

1) Takimoto, M.; Mizuno, T.; Sato, Y.; Mori, M. *Tetrahedron Lett.* **2005**, 46, 5173.

2) Takimoto, M.; Mizuno, T.; Mori, M.; Sato, Y. *Tetrahedron* **2006**, 62, 7589.